

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月29日

福岡県知事  
服部 誠太郎 殿

提出者

住 所 福岡県京都郡苅田町長浜町35番地

氏 名 株式会社九州テクノメタル

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

代表取締役社長 岩崎 俊弥

電話番号 093-436-2713

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社九州テクノメタル
事業場の所在地	福岡県京都郡苅田町長浜町35番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	輸送用機械器具製造業
②事業の規模	20,264百万円/年(令和4年度)製造品出荷額
③従業員数	585人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり 別紙3

(日本産業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙のとおり EMS運用規定 図4-4-1環境マネジメントシステム組織図、 産業廃棄物管理規定KMS343表4			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙のとおり			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙のとおり 産業廃棄物管理規定KMS343別紙2、別紙3		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック：種類ごとの分別		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項										
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	鋳さい	ガラス陶磁器屑	木屑	
	排出量 t	2450	472	0	0	115	317	68	85	
（これまでに実施した取組） 廃油、廃プラスチック類、木屑については、個々に減量、分別回収を実施し、有償化を実施した。										
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	鋳さい	ガラス陶磁器屑	木屑	
	排出量 t	2400	462	0	0	113	311	66	83	
（今後実施する予定の取組） 自動車用の鋳鋼製鋳物部品事業及びセラミックス製品事業は、今後も拡大する見込みであり、産業廃棄物の排出を原単位指標（排出物量・産業廃棄物量／生産高）で管理し、主に鋳さい、汚泥の産業廃棄物の削減に努める、廃油、廃プラスチック類については、個々に減量、分別回収を実施し、有償化を継続する従業員に産業廃棄物の減量、分別等に関する環境教育を定期的に行う。										
※事務 処理欄										

産業廃棄物の処理の委託に関する事項										
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	鋳さい	ガラス陶磁器屑	木屑	
	全処理委託量	2450	472	0	0	115	317	68	85	
	優良認定処理業者への処理委託量									
	再生利用業者への処理委託量	2450	472	0	0	115	317	68	85	
	認定熱回収業者への処理委託量									
（これまでに実施した取組） 鋳物製造工程から発生する鋳さいの一部は埋立処理を行っているが、平成20年10月から事業所内の中間処理業者にて、鋳さい及びガラス・陶磁器屑の再資源化を順次、実施中である。										
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	鋳さい	ガラス陶磁器屑	木屑	
	全処理委託量 t	2400	462	0	0	113	311	66	83	
	優良認定処理業者への処理委託量									
	再生利用業者への処理委託量	2400	462	0	0	113	311	66	83	
	認定熱回収業者への処理委託量									
（今後実施する予定の取組） 廃油の工程内再利用を推進し、廃油の発生抑制を実施する計画である。										
※事務 処理欄										